

*クビアカツヤカミキリはクビアカとし、ソメイヨシノ（染井吉野）は桜と表現する。

*フラス：クビアカの糞と木屑の混合物。

2024年2月2日、行政の対策（防虫網、薬剤注入）を報告した。今回はその後を報告する。今年の花は咲いたが、花、花筏、葉桜共に厚みが無かった。

今年の酷暑はクビアカには適温で、フラスの排出は激しく桜の行く末が心配になった。昨秋、埼玉県環境科学国際センターの二人の職員（農学博士）に来て頂いた調査があり、立ち会いし被害が大きいと認識した。今年もフラスの堆積は日ごとに増した。そこで生活圏の桜を見た。その結果、高崎線以北で利根川まで約2 km、東西約3 kmの範囲の桜で樹齢約40年以上の樹皮表面が荒れた古木は、殆ど（80%以上）がクビアカの侵食を受けていた。

中には桜自身の抵抗力の樹液を激しく漏出する樹もあり悲惨さと痛々しさを感じている。

クビアカと桜の関係：クビアカの卵は樹皮の隙間で幼虫となり樹皮に穴を空け樹内に入り樹を摂食する。その際、水の通り道（導管）を食いちぎる。結果、桜は枯れ死する。桜が弱って行く気がしたのでインターネットで調べた。

そして大阪府富田林市の外郭団体：富田林市公園緑化協会のHPを見た。素晴らしい活動なので資料提供を依頼した。無料で資料（桜を守る防除マニュアル、処分方法、薬剤の選び方等）を沢山送ってくれた。富田林市の科学的視点から環境を守る意欲を感じた。資料を本庄市関係部署にも送った。

ソメイヨシノとはクローン植物で全国のソメイヨシノは、皆兄弟で病害虫に弱く挿し木で育てるしかない。寿命も人間と同じ程度で高齢樹木が多い。そこにクビアカが取りついている。



桜の状況・写真で科学国際センターと富田林市公園緑化協会に所見を聞くこともある。

左写真は小さい公園の桜で4本、右写真は土手300mの桜並木。これら全て根元にはフラスがある。遠景だが枝の上が透けている。

両機関は、これらの桜は放置すれば来年から数年の間には枯れるだろうと推定。

ではどうするか。それが課題である。

被害は全国的には東北は仙台付近、中部は一部、関西は広く拡大しつつある。

関東、特に北関東は被害が大きい。現在、観光資本の桜は全力で救命するが他は伐採するしかないのか。その時の景色は寂しい。「苗木を添えて代替えを凶ってやる」など考えたい。

以上